

## 兵庫県生物学会第40回記念総会報告

期 日 昭和61年5月23日(金)・24日(土)

会 場 明石市立勤労福祉会館

開会のことば 当津理事長

会長あいさつ 室井会長

本日ここに第40回の記念総会を迎えることになりました。これはひとえに皆様方のご協力のたまものと存じます。本日は早々から明石市教育長の松村先生には来賓として、神戸女学院大学教授の矢野先生には講師としておいでいただいております。高い所からではございますが厚く御礼申し上げます。また、東播支部の皆様には準備その他、いろいろとお世話になり、会員に代りまして御礼申し上げます。

この50年間を振り返りますと、私は丁度昭和5年の博物学会時代から参加させていただきまして、その間、学校に行っていた3年間を除いて、総会には全部出席させていただきました。そしていろいろな思い出を持っております。その間に会員の皆さんの研究物が中心になりまして、兵庫県植物目録が出版されました。そして現在、東京や神戸の三宮では高価で売買され、その価値の高いことを証明するものと思われれます。その他、兵庫の自然、続兵庫の自然、天然記念物細見、播磨の植物、そのほか多くの書物が出版されました。いずれも好評で、出版元では品切れになっております。

兵庫県生物学会は昭和22年に発足し、ここ明石の地で第1回の総会をもちました。当時から明石にはいろいろな縁がありまして、金井知事の時代に明石市で明石公園の城の前に結婚式場が計画されましたが、私は金井知事の意を体して、当時兵庫県の県会議事堂前に各社の新聞記者を集めて建設反対の弁を一席やりました。それで、その計画は中止になり、現在にいたっております。それ以来いつ来ましても、あそこは思い出の場所になっております。現在競輪場の横に図書館がありますが、あの図書館は結婚式場の代りに交換条件として建設されたものであります。

その後、もう10年ほどにもなりますが、明石公園の上に文化庁から数億円の予算をもらって大植物園的なものを建設しようとしたのですが、明石市民が大反対をして、立ち消えになりました。また、明石の水族館が閉鎖される時の式に呼ばれまして、一番欲しいものをやるから帰れと言われてましたので、私は鯛をもらって帰りました。そして、さしみと煮付けにして食べましたが、油のり過ぎて、美味とはほど遠いものでした。何年も水



総会風景

槽内で飼育された魚の味はつまらぬものだとつくづく思いました。

本日はこの思い出の多い生物学会発祥の地で皆様方のご協力を得て、第40回記念総会をもつことができたことをうれしく有難く思っております。

最後に私事にわたりまして恐縮ですが、皆様のご厚意によりまして私のために記念誌をつくっていただきまして、まことに有難く思っております。子孫に伝えまして記念にしたいと思っております。

### 来賓祝辞

明石市教育委員会 松村教育長

明石市教育委員会の松村でございます。新緑が日増しに色濃くなってまいりまして、初夏のさわやかな風が吹き渡ります。ここ勤労福祉会館で兵庫県生物学会の創立40周年記念総会が開催されるに当り、一言お祝いを申し上げますと存じます。昭和22年、23年と申しますと、終戦後間もない混乱期のさ中でございまして、この明石市は一面の焼け野原であったと思えます。その明石で学会の創立総会が開催されたとお伺いしておりますが、爾来40年、生物学会の果たしてこられた役割は大変大きく、特に教育に与えられた影響についてはそのご功績ははかりしれないものがあろうと存じます。中でも機関誌の「兵庫生物」をはじめ、兵庫県植物目録、兵庫の自然、播磨の植物、さらには高校生物ハンドブック等々に代表されます刊行物の評価は大変高く、学会だけでなく広く小学生から社会人にいたるまで幅広い支持を受け、多くの人々に期待されているところでございます。さらに100回を越える現代生物ゼミナールと、13回を迎えられる公開講座等は開かれた学会として、その内容と共に高く評価

され、毎回地域社会の人々から多数の参加希望が寄せられているところでございます。

このように兵庫県生物学会がこの40年、すばらしい発展をとげられ、今日に至ったかげには生物学会一すじに打ち込んでこられた多くの先輩の方々のご苦労があったればこそと思います。創立40周年のこの記念総会の席であらためて兵庫県生物学会を育て、盛り立て推進してこられました関係の皆様にご敬意と謝意を表する次第でございます。

当明石で生声をあげたこの学会が40年という一つの節目となる総会を再びこの明石で開催していただくことは地元として大変有難く、意義深いものがあるかと存じます。どうかこの学会がこの総会を節目とされまして、今後ますます充実と発展をとげられ、学校教育に、さらには社会教育に、広く自然を愛し、環境を守ろうとしている人々の心の拠り所としての活躍をお願い致したいと存じます。それと同時に会員の皆様方の今後のご健勝とご活躍を心から祈念いたしましてご挨拶いたします。

#### 兵庫県生物学会40年の歩み

創立40周年記念総会 理事長 当津 隆

わが兵庫県生物学会が40周年を迎えるに当たり、何はさておき、いまは亡き先輩諸氏のご辛苦に敬意を表し、ご指導、ご教示の数々にあらためて感謝申し上げ、謹しんでご冥福を祈ります。懐しい方々が次々と思い浮かんでまいります、中でもとりわけ学会の組織づくり、人づくり、運営の核として基礎固めをされた初代会長森為三博士に頭を垂れ、合掌いたします。

お手許にお配りしました生物学会40年の歩みとしばらくの時間を共にしていただきたく思います。わが国は昭和20年、敗戦によって戦前にあったものすべてが総点検されました。その時代思潮の中にあって、わが生物学会も例外ではありませんでした。戦前からありました由緒正しい兵庫県博物学会の流れを受け継いで、新しく生まれ変わったのであります。時は昭和22年、1947年の夏のはじめ、焼野が原の廃墟に少しずつ青い芽吹きを感じる頃、ここ明石の地で再生の創立総会が開かれたのであります。それ以来、自然に親しみ、学問を愛し続けて40年、とくに教育界への波紋、貢献は大なるものがあります。この歴史を支えてきたものはいうまでもなく会員の皆様のお力添えによりますが、特筆すべきものを少し申し添えさせていただきます。その第一は機関誌『兵庫生物』でありましょう。地方学会の出版物としては自負できるものであります。いまでは本学会の誇れる大きな財産となりました。そのほか、評価の高い刊行物が次々と発行されました。なかでも、学会の財政面での支えとしての『高校生物ハンドブック』は研修活動の仲間を拡げてい

くエネルギー源にもなり、現代生物学ゼミナールを生むきっかけともなりました。いまや、まさにゼミナールへの期待はますます大きく、重くなり、100回を越え、研修熱の高まりはいよいよ盛であります。また、公開講座も今年は13回目を迎えます。開かれた学会として、地域社会へのひろがりは今後も強まっていくものと思われま。その他、タイミングよく行われてきたさまざまな行事への回想をしながら、それぞれへの役割を果し続けてこられた方々に厚くお礼申し上げます。企画、研修、事業、編集の各部、各支部の運営に当たられた方々、とくにハードな仕事に身を献じてくださった本部会計、高校生物ハンドブック会計の方々に感謝いたします。さらに顧問の先生方、教育委員会ははじめ、ご高配を賜った各方面からのご支援に対し、重ねてお礼申し上げます。学会の発展と会員の皆さまのご多幸を祈りまして、40周年の歩みの報告を終えさせていただきます。

#### 兵庫県生物学会40年の歩み

- '47 創立総会（明石）  
初代会長 理学博士 森為三
- '48 会誌「兵庫生物」創刊
- '50 生物の科学・大学入試問題集発刊
- '55 生物実験ノート発刊
- '56 兵庫県生物誌発刊
- '58 会長森為三県文化功労賞を受く
- '59 六甲の自然刊行（六月社）
- '60 兵庫の自然発刊（のじぎく文庫）
- '61 現代生物学ゼミナール開講
- '62 森・生物研究奨学金制度発足（のちに三木、紅谷、岡村氏資金提供）
- '63 金井元彦県知事から感謝状を受く（天覧植物への協力について）  
高校生物ハンドブック初版発刊
- '64 会員農学博士室井緯県文化賞を受く
- '66 創立20周年記念総会  
兵庫の自然刊行（六月社）
- '67 明石公園の自然保護につとめる（明石市文化会館建設候補地について）  
県花、県鳥、県樹刊行（のじぎく文庫）
- '69 続・兵庫の自然刊行（のじぎく文庫）
- '71 兵庫県植物目録刊行
- '73 会長に農学博士室井緯を推挙
- '74 公開講座開設  
会長農学博士室井緯県生活功労賞を受く
- '76 創立30周年記念総会（明石） 会員数558名  
新・兵庫の自然刊行（のじぎく文庫）  
海外研修（台湾）旅行 65名参加

- '79 天然記念物細見刊行（神戸新聞出版センター）  
新・兵庫の自然刊行（ ” ” ）  
志のび草刊行（川崎正悦先生遺稿集編集委員会）  
第100回記念 現代生物学ゼミナール
- '80 播磨の植物刊行（神戸新聞出版センター）
- '83 ユースセミナーへ講師派遣開始（県文化協会）
- '86 創立40周年記念総会（明石）

公開講座		(敬称略)	
第1回	室井 綽	公害・兵庫県の生物	
2	中西 哲	南極の自然	
3	広瀬弘幸	藻の生活と人の生活	
4	奥谷禎一	港と昆虫	
5	釜江正巳	花とくらしースイセンの歴史	
6	林 中元	ロッキー山脈紀行	
7	岡村はた	斑入植物の話	
8	富川哲夫	淡水プランクトンの生活	
9	一色八郎	手は見える脳である	
10	洪野竜二	植物の見かた見せかた	
11	杉田隆三	植物散歩ー播磨灘から氷ノ山 まで	
12	細見末雄	但馬の植物の方言	
13(予告)	当津 隆	スピードへの挑戦・5億年	
			10/25

研究奨励金授与

- 阿蘇達郎 ワカサギの形態学的研究
- 河浪 繁 大屋川のトビケラの生態研究
- 平畑政幸 ヒヤシンスの球根の温度処理による巨大  
胚のう様花粉出現の研究・植物観察指導  
の研究
- 山田 隆 キュウリの品種改良の研究

感謝状贈呈

- 赤穂重雄殿
- 橋本宗一殿
- 山垣内勝美殿

「あなたは多年にわたり本学会の発展のために尽されました。その功績はまことに大であります。創立40周年記念総会に際し、会員の総意をこめて感謝の意を表します」  
兵庫県生物学会会長 室井 綽

会員研究発表

- 阿蘇達郎 加古大池に棲息するワカサギの形態学的  
研究
- 河浪 繁 大屋川上流のトビケラ類の分類と生態
- 平畑政幸 ヒヤシンスの球根の温度処理による巨大  
胚のう様花粉出現について
- 山田 隆 キュウリの品種改良について

議 事

1. 昭和60年度 事業・会務報告

- (1) 会計監査委員会  
60・4・27 明石高校
- (2) 理事会 4・27 ”
- (3) 第39回総会 5・24-25 八鹿町民会館
- (4) 常任理事会(臨時) 6・15 明石高校
- (5) 常任理事会(臨時) 7・27 ”
- (6) 夏期研修会 8・20-21 氷ノ山
- (7) 常任理事会(臨時) 8・27 明石高校
- (8) 海外研修(ハワイ)旅行説明会  
10・26 トラベラー商会
- (9) 第12回公開講座 11・9 豊岡市民会館
- (10) 第40回記念総会準備会  
(東播支部会) 61・2・22 明石北高校
- (11) 常任理事会(定例) 3・8 明石・当津会館
- (12) 会計監査委員会 4・26 明石高校
- (13) 理事会 4・26 ”

2. 出版物報告

- (1) 兵庫生物 (Vol. 9, No 2, Feb. 1, 1986)  
(近藤昭一郎)
- (2) 高校生物ハンドブック (第23版) (山田 隆)
- (3) 淡路の自然 (編集中) (岡田 清隆)
- (4) 但馬の自然 (企画中) (今井 幸夫)
- (5) 竹と共に七十年・室井綽博士物語 (当津 隆)

3. 昭和61年度 記念行事と企画案

- ア 創立40周年記念海外研修(ハワイ)旅行  
8・23~28 ハワイ
- イ 記念写真展 5・23~25 明石市立勤労福祉会館
- ウ 記念公開講座  
10・25 明石商工会議所ホール
- (1) 夏期研修会(別紙)  
8・4~5 県立水産試験場他
- (2) ” ( ” )  
8・5~8 神大臨海実験所
- (3) ” ( ” )  
8・18~20 神大臨海実験所
- a 臨時理事会 61・9・20 神戸  
「生物学会の組織の問題」
- b 常任理事会 62・3・7 洲本 予定
- c 会計監査委員会 62・4・25 明石高校 ”
- d 理事会 62・4・25 ” ”

- 4. 会計決算報告・監査報告 (p. 参照) 上岡雅和  
監査委員 富川哲夫

## 講演

### 植物群落の地下生態

神戸女学院大学教授  
理学博士 矢野悟道

#### I 植物群落の地下生態の研究史

#### II 地下器官とは (Subterranean Organ)

根 (Root): 水および栄養塩類の吸収, 植物体の支持,  
栄養貯蔵機能

地下茎 (Rhizome): 栄養繁殖および栄養貯蔵機能

根群 (Root Com.)

根系 (Root System): 地下部 (根, 地下茎) の一般  
の分布をいう。

#### III 調査法

##### 1) 根系分布

(1) Trench-tracing method (2) Root box 法

(3) 根系追跡法 (4) 水洗法 等

##### 2) 根系生産量

(1) 碑石法 (Monolith method)

(2) ホーリング法 等

#### IV 表現法

##### 1) 類型法

(1) 深度型 (Rd) (2) 根系基本型

(3) 栄養繁殖型 (4) Metsävanio (湿原, 1931)

(5) 吉岡 (林床, 1937)

(6) 矢野 (砂丘, 湿原, 草原)

(7) Klasilnikov (1968)

2) スケッチ法 3) 根長 4) 根表面積

5) Bisectquadrat method

(1) 根断面図化 (2) 根断面配分層別図化

(3) 層別重量図化

#### V 調査例

1) 砂丘 2) 草原 3) 湿原

4) イワテヤマヤシ 5) クズ群落

6) カシワ林

#### VI 地下遷移

#### VII 今後の問題点

1) 調査法の研究 2) Rhzotoron の設置

3) 土壌動物との関係

4) アイソトープの使用 (Radioactive trace method)

5) エロバシの問題

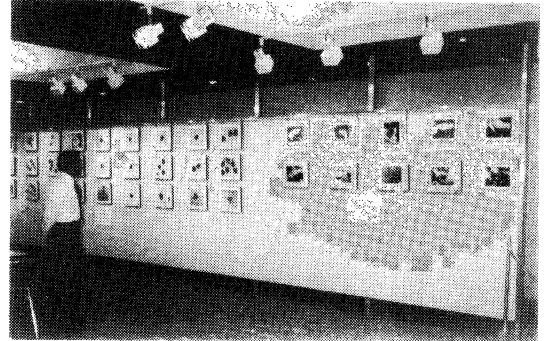
#### おことわり

講演予定「五界説とその背景」は講師中西哲先生のご健康上の都合でやむをえず中止となりました。

## 創立40周年記念 生物写真展

写真展委員長 阿蘇 達郎

兵庫県生物学会創立40周年記念行事の一つとして、生物写真展を明石市立勤労福祉会館1階ギャラリーで開催した。計画当初、会場が広すぎはしないかと心配する向きもあったが、会員諸兄の力作により会場全体を埋めることができ、すばらしい写真展となった。出品して下さいだった先生方には、カラー印刷、額縁、パネル等に多額の出費を強いる結果になり恐縮ではあったが、写真展を成功させるのに参加できた満足感と引き替えにして頂きたい。本当にありがとうございました。



生物写真展

#### (出品者氏名)

赤穂重雄 (神戸市) 阿蘇達郎 (加古川西高)  
荒木知子 (加古川西高) 今津達夫 (竜野高)  
大西政信 (小野高) 大場義憲 (加古川東高)  
北村 健 (小野高) 小林拓郎 (小野高)  
小山隆男 (小野高) 渋野竜二 (神戸西高)  
当津 隆 (姫路学院短大) 西井 隆 (加古川西高)  
橋本光政 (姫路西高) 春名利雄 (神戸市)  
平畑政幸 (明石高) 福井武勝 (太子高)  
古田 昌 (香寺高) 松帆真知子 (神戸市)  
三宅隆三 (西宮東高) 柳 哲雄 (長崎県)  
横山雅一 (神戸市) 横山了爾 (竜野高)

## 第2日

### 太山寺・寺谷方面野外観察会

記念行事の第2日目、野外観察指導研究会は、室井会長をはじめ春名、杉田、谷口、橋本の諸先生の指導と若い熱心な会員の参加、それに好天にもめぐまれ多くの成果をあげることができた。午前中は太山寺山門から伊川の工事用一枚板の橋を渡って畦道から原生林に入った。春名先生の最近数年間の採集になるシダ類リストの説明を聞き観察する間に新しく追加する種も確認された。

朽木や倒木が多く、うす暗い斜面のコジイの大木の下で、典型的な林層の階層構造について実物を前にした杉田先生の説明を聞く。タイミンタチバナ・ホソバタブ・ナナミノキ・イズセンリョウなどが観察できた。県指定の保護林とあって採集は遠慮しようとの会長の意見もあって予定変更、原生林を出て北側の奥の院観音堂への道をたどることになる。

旧バス道から登りはじめたあたりシンジュギクが道全面に花盛りで、あたかもボタン雪の舞い降る様を思わせる程で早速当津理事長のカメラに納まった。観音堂近くで昼食。下山途中はウバメガシ ヤマモモの多いブッシュを通る。「ウバメガシは花こう岩帯に多く、シイ林は大阪層群の上であり、神戸層群にはシイ林はできない。コジイ、クロバイ群集と以前から呼ばれていたが、コジイ・カナメモチ群集と呼ばれる林が県内に多い」と聞き、植物社会の一端をのぞいた。リンボク（ヒイラギカシ）が見られたのも大きな収穫である。

午後は山門を出発、太陽と緑の道になっている平たんな山路でソヨゴ・ネジキ・ナツハゼなどがく見られた。仏谷洞くつでは例年よりも水が多く、イワタバコが美しく花も見られた。ホソバタブが10年前に比較して大きくなり、また数多く見られた。チャルメルソウ・コカンスゲ・ヤブソテツ・クジャクシダなどを採集することができた。寺谷ファーム（牧場）に近づくあたりにはブタナの黄色い花が目立ってきた。寺谷バス停で来年もとと再会を約束し帰路についた。

（平畑 記）

#### 野外観察会参加者（61.5.24）

谷川 敬次（六甲高）	小嶋 良平（市須磨）
宇那木 隆（賢明）	中野 正道（尼東高）
春名 利雄（神戸市）	松帆真知子
当津 隆（姫路女短）	松岡 聡子（姫路西）
藤尾 妙子（姫路）	船曳 美佐（伊丹市高）
西出 光男（城内高）	木村 健治（武庫荘高）
西本 裕（小林聖心）	梶谷 佳子（県神戸商）
薄井 芳奈（鈴西高）	坂田 正（夙川）
栗山 哲也（尼東高）	杉田 隆三（賢明）
橋本 光政（姫路西）	後藤 統一（西宮今津）
高島 千明（赤穂高）	平畑 政幸（明石高）
原田 健一（伊丹市高）	有本 吉孝（江井島中）
田中 俊雄（武庫荘高）	猪股 涼一
福井 武勝（太子高）	梶原 洋一（鈴西高）
大口 修（六甲高）	奈島 弘明（青雲高）
北村 健（小野高）	室井 綽（姫路女短）
古田 昌（香寺高）	大西 洋樹（夢野台）
村上 義徳（親和）	岸本 浩（伊川北高）
川上 清統（須磨東）	前田 常雄（村岡高）
永井 信之（城内高）	松本 邦恭（多可高）
橋本 宗一	岸部美知子（押部中）

### 第41回 総会のご案内

と き 昭和62年5月  
と ころ 淡路支部

上記の予定になっておりますので、研究発表等ご希望の方はあらかじめ、ご準備ください。